

水戸幼稚園の紹介①

教育理念

神様に愛されている幼子、そして育てている保護者が喜びに満たされる生活を送れるように、今を大切に生きること。

幼児期とは？

幼児期はお子さんの内側にある思いを、外へ現す活動の時期。その活動が遊びなのです。つまり、幼児期は遊びの時期なのです！遊びを通してこそ、この時期はお子さんの発達を支えられるのです。

そこで幼稚園では？



WAKU-BLOCK (集団用積木)

幼稚園とは**Kinder-Garten**=幼子の庭と呼ばれています。幼児の教育は保育者が全面に立って指導する場ではありません。丁度庭師が、個々の植物が己の力をいかに発揮して成長できるかを見守り、手入れをするように受け身であり、後ろからついていくような姿勢のものだと考えます。ですから、おのずと「のびのびとした子ども像」が理想となります。家庭だけでは支えきれないお子さんの成長を幼稚園はご家族と一緒に支え、家庭での生活が幼稚園で生かされ、幼稚園での生活が家庭に刺激を与えるようにと考えています。社会とは多様な個性をもつ人の集まりです。その多様性を受け入れて、出来る限り気長に待つ。そして何事も前向きに教育、保育することが当園の特色です。



いつできたの？

創立は水戸市で3番目、**1939年(昭和14年)**に出来ました。キリスト教の信仰をもった創立者が、目に見えない物が本当は一番大切なもの…という信念で、幼子にそのことを伝えたいという思いをもって、始めました。

どんな設備？

〔園舎〕鉄骨構造2階建て（耐震基準合格）

保育室－2 ホール－1 幼児用トイレ洋式 シャワー

絵本の部屋（厳選された絵本1500冊以上）

相談室 職員室等

木造平屋建て

保育室－2 給食室 幼児用トイレ洋式 和式等

夏場は集団活動時エアコン使用

冬場は空気を汚さない、床暖房使用



〔園庭〕樹木多数 樹齢60年以上の桜の大樹が夏場には緑陰を作り、秋にはザクロの実をほおぼることが出来ます。苺やラズベリーも実がなったら楽しめます。H23年度は、福島原発の事故があり試食は控えておりますが、遊びの中では使っています。

大型固定遊具 お子さんが運動能力を伸ばしたくなるような、魅力的な遊具があります。点検は毎年かかしません。デンマークのコンパン社のトライジムは人気の遊具です。

砂場 毎年入れ替えている砂は、さらさらで安心できる素材です。砂場に欠かせない素材の水は、水道が近くにあり常時使用できるので、ダイミックに遊んでいけます。

何クラスあるの？

3歳から6歳までのお子さんが混ざって一つのクラスを作っています。グループという名称で現在は4グループあります。今年度は1クラス30名前後です。

幼稚園は小学校のようにクラスの全員が同じ事をいつもするという場ではありません。生活の場は、昔から続いている家族のように、色々な年齢や立場、状況の子供達と大人が集まって作られるものと考えます。

外からの働きかけや応答が多いほど、中身の濃い安定した社会力ができるとい考えがあります。社会力の土台である他者を認識する能力と、他者の気持ちを想像する力は、できるだけ多様な他者が存在する社会にいたっては、認識できるようになりません。

各グループは2人の保育者がつきますが、グループを超えて話し合い、皆で保育をしていこうという意識で行っております。また主活動は同年齢のクラスで集まり、活動をいたします。こちらも担任があり、年齢ごとの成長を意識してまいります。

***社会力(社会を創り、その社会を運営しつつ、よりよい方へと創造し続けるために必要な資質)**



食事について

食べることを楽しむ、ということを意識してやっております。月曜、金曜はおうちの方の味つけで、お母さんが、お父さんが私のために作ってくれたという経験をします。

火曜、木曜は園の管理栄養士の味つけで、家庭とはまた違った食材、彩り、味わいを経験していきます。食材にも気を配り、アレルギーのあるお子さんにも対応してきました。年長児までには、食べる事への喜びを身につけられるようにと、ご家庭と共に頑張っています。

一日のながれ

| | |
|-----------|---------------------------|
| 8:30~9:30 | 登園 自分の好きな場所で遊ぶ・過ごす |
| 10:40 | 主活動 |
| 11:40 | 昼食準備、昼食 |
| 12:40 | 絵本を楽しむ 自分の好きな場所で遊ぶ・過ごす |
| 13:15 | 片付け、降園準備 |
| 13:30 | 帰りの集まり |
| 13:45 | さようなら |

教育方針について

1. キリスト教保育を中心にすえています。目に見えないものの中に人が生きていくのに必要なものがあるのです！愛されているってどうしたら感じるのでしょうか。子供達は聖話や絵本やお話の世界を、語ってくれる大人と共に、深く味わいます。その空気(漂うもの)が栄養となります。
2. 遊びを中心とした生活を重んじています。お子さんが自由な雰囲気の中で、興味を持ったことに向かえるように！「～してはいけません。」という規制の枠はなるべく大きく取って、ゆったりとした時間の中で、自分たちの考えていることが重んじられていくように援助しています。
3. 異年齢の仲間、障害をもった仲間が共に生活し、大人も子供も理解を深めていけたらいい。理解していくためには、葛藤や失敗があってもいい、と考えております。
4. 身近な自然の中にも不思議が一杯あります。畏敬の念と不思議を感じる感性を育みましょう。大人は脇に寄り添って見守り、共に驚く者でありたいです。
園のすぐそばは県が管理している沢渡川緑地です。子供達の好奇心を満たし、のびやかに感性と体を育める場となっています。
5. 大地にしっかり足をつけ、体を動かして遊ぶことで、体力、運動能力、自分をコントロールする力がついていきます。運動靴でも、裸足でもどちらでも園庭で遊べます。足のばねは確実に付いていき、足腰の強いお子さんへと成長していきます。5歳児は週1回体育クラブの男性講師と、うんどうあそびの時間をもちます。